

学校支援の充実

家庭や地域と連携・協働し、持続可能な学校支援を行うPTA活動

稲沢市立祖父江中学校PTA

1 はじめに

稲沢市は、濃尾平野の中央に位置しており、人口およそ13万人の市である。肥沃な土壌と温和な気候を生かし、植木や野菜の産地として発展してきた。また、ギリシャのオリンピック市とは、昭和62年に友好都市提携が結ばれており、中学生の交流や2024年のオリンピック開催の年は、本校の生徒が聖火リレーの選手として参加している。



【祖父江中学校校舎】

本校は、明治27年に創立し、今年で131年目を迎える。本年度は、学級数18、生徒数493名、PTA会員484名でスタートした。校訓「聡明で正しく 明朗でうるわしく 剛健でいさぎよく」を掲げ、社会の変化に適切に対応でき、豊かな心をもってたくましく生きる生徒の育成を目指して、家庭や地域と学校が連携・協働を図り、生徒の健全育成に努めている。

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

本校PTAは、学校教育活動の充実や教育環境整備、PTA会員の研修や会員同士のつながりなどの振興に寄与することを目的として学校支援を行ってきた。しかし、ここ数年のPTA活動は、少子化、共働き世帯の増加、新しい生活様式や価値観の多様化などにより、活動の意義や役員、学年委員の選考の難しさなどが課題として挙げられることから、PTA組織や活動の在り方を見直す時期となってきた。

そこで、本校PTAでは、これまでの活動に捉われることなく、家庭や地域の実情に合わせ、活動内容や組織の見直しを図りながら、できることを無理のない範囲で行うことを基本として、持続可能なPTA活動に取り組んでいる。

(2) PTAの組織と活動内容（令和7年度に規約の改正を実施）

① PTAの組織

ア 役員と会計監査は、6小学校区ごとに1名ずつ選出し、会長1名、副会長（家庭教育委員）1名、書記1名、会計1名、会計監査2名とする。

イ 委員は、6小学校区ごとに1名ずつ選出する。

ウ 字委員（地区委員）は、各小学校区からの報告数とする。

② 活動内容

ア 役員、会計監査、委員は、実行委員として「広報委員会」「研修委員会」「環境委員会」の一つに所属する。委員長、副委員長は、委員が担う。

イ 字委員（地区委員）は、校外生活モニターとして、地域での生徒の様子を報告・共有したり、必要に応じて交通立ち番活動を行ったりする。

3 実践活動の概要

（１） P T A組織の改編と活動内容の見直し

① 委員数の調整

次年度の役員決めでは、候補者の選出に難航する小学校区が多く、特に各種委員会（「広報委員会」「研修委員会」「環境委員会」）の中心となる学年委員は、6小学校区毎に各学年1名ずつ、3学年で18名を選出するため、調整役となる現任役員の苦勞が絶えない。そこで、各種委員会の人数を最小限にし、活動自体はボランティアを募る形とした。令和7年度の組織づくりでは、「学年委員」という名称を「委員」に変更し、6小学校区ごとに1名ずつ選出することにより、これまでの18名から6名に調整を図った。また、字委員（地区委員）においても、各小学校区の希望により人数の変動を可能にするなど、P T A組織のスリム化を図りながらも広く活動への参加を呼びかけ、「やりがい」や「意義」を感じられるP T A活動を推進することとした。

② 会議のもち方

会議の回数や開催時期、協議内容、出席者の見直しを行い、年間の活動計画を一覧にまとめ、役員や委員決めの際の資料とした。これまで、実行委員会と各種委員会は別開催で行っていたが、規約の改正に伴い、実行委員は各種委員会のメンバーでもあることから、一度の集まりで二つの趣旨の会を行えるようになった。また、これまで年4回開催していた全委員会（実行委員・字委員による会）を年度当初の組織の立ち上げ、年度末の役員候補者選出依頼の2回とし、必要があれば臨時に開催することとした。会議数を減らしたことで、1回の会議の時間が長くなるのではと危惧されたが、少人数でもそれぞれの立場で主体的に意見を交わすことができ、以前と変わらない時間の中で充実した話し合いができています。

③ 各種委員会活動の取組

年度当初の各種委員会では、前年度の引き継ぎを基に、年間の活動計画を作成している。委員数の調整とともに、活動内容についても見直した。実際の活動では、企画全般を委員が行い、運営に関してはボランティアを募り、協力可能な人員で行うこととした。また、P T A会長が学校運営協議会委員であることから、地域全体で子どもたちの

学びや成長を支えるという視点で、ボランティア募集の際は、学校と地域をつなぐ役割を担っている。

(2) 家庭との連携・協働（各種委員会の主な活動）

① 広報委員会

広報紙を紙媒体の「祖中新聞」から web ページ化した「祖中 P T A だより」に変更し、P T A 研修会への参加報告や講師による学習会について掲載するなど、会員が P T A 活動や子どもたちの学びの様子を共有することをねらいとした。今後も P T A 活動の紹介を中心に、子どもたちの活動や成長の様子など、工夫を凝らした情報発信に取り組んでいきたい。

② 研修委員会

研修委員会では、会員相互の学びの場として、会員が気軽に参加できる機会を増やし、子どもたちと学びを共有することをねらいとした。

ア A E D 研修会

「保健体育の授業で A E D を使用した心肺蘇生法を学習している」という会員同士の話題から、命と健康をテーマに A E D 研修会を実施した。参加した会員は「A E D」を知ってはいるが、実際に触れたことのない方ばかりであった。研修後の感想では「子どもが学校で学んでいることを親も学ぶことができ、家庭での共通の話題として、とてもよい経験になった」という意見が多くあった。



【A E D 研修会の様子】

イ 防災食づくり

防災をテーマに防災食づくりの研修会を実施した。地元大学の健康栄養学科助教を講師として招き、ポリ袋を使って、ご飯、さば味噌煮缶カレー、ポテトサラダを調理した。試食後は、備蓄の仕組みとなるローリングストックの方法や災害時に健康を維持するための栄養面の話进行伺い、食の面から災害への備えに対する意識を高めた。



【防災食づくりの様子】

ウ スマホ・ケータイ安全教室

毎年子どもたちを対象に行われている「スマホ・ケータイ安全教室」を、学校の生徒指導部と P T A との共催とし、学校公開日に合わせて開催した。事例からのエピソードを基に、考えて対話する場が設定されていて、子どもたちだけでなく会場の会員たちも自分事と捉えて参加することができた。共通の話題があることで、親子での対話を深めたり、スマートフォン等のメディアとの関わり方を振り返ったりするきっかけとなった。

③ 環境委員会

P T A環境委員会では、中学校の環境委員会の子どもたちと協力して玄関前や正門付近の花壇にパンジーやマリーゴールド等の苗植えを行ったり、学期末の大掃除では、特別教室のワックスがけを行ったりするなど、子どもたちが安心・安全に生活できる学校環境整備に努めている。各種委員会や学校運営協議会で話題となった環境整備に関する課題を解決するため、地域学校協働活動推進員と連携してボランティアを募集し、活動している。



【花壇の苗植えの様子】

(3) 地域との連携・協働（学校支援ボランティアの主な活動）

① 学校祭（体育祭）準備日のテント設置

学校は数年前から、体育祭での熱中症対策として、各学級の生徒控え席にテントの設置を行っている。例年の課題が準備日に学級数分のテントを設置する人員の不足であった。課題の解決にあたりP T A会長が学校運営協議会の話題として、準備日におけるテント設置や後片付けの地域協力を依頼した。当日は、子どもたちが主体となり準備した。会員や学校支援ボランティアは、テント設置の補助や安全面における子どもたちへの声かけなどを通して支援した。



【テント設置の様子】

② 側溝の泥上げ

雨天後のテニスコートは、全面が水浸しとなり部活動ができない状況にある。卒業前に行われる3年生の奉仕活動では、テニスコート周辺の側溝の泥上げを行っているが、活動時間の制限や子どもたちの割り当て人数の不足から、部分的な取組となっていた。この状況の改善に向けて、学校運営協議会で話し合ったことがきっかけとなり、3年生の子をもつ会員を中心に学校支援ボランティアが側溝のコンクリートの蓋上げを行い、子どもたちが泥上げを行うことで、活動時間内でテニスコート周辺の泥上げを終え、雨天時の課題を解消することができた。

4 おわりに

子どもたちの健やかな成長は、家庭や地域、学校によって支えられている。本実践では、P T Aとして、できることを無理のない範囲で、家庭や地域に学校支援への参加を広く呼びかけることで、学校教育活動や教育環境整備への理解を深めていくことの大切さを再認識した。今後も、家庭や地域と連携・協働し、持続可能な学校支援を行うP T A活動に取り組んでいきたい。